

2018年2月17日(土)

地域コーディネーターリーダー研修会

@仙台市生涯学習センター

分科会形式で行われました。発表事例は4つあり、その中の「学校支援地域本部スーパーバイザーの取組」について聴いてきました。学校と保護者と地域の連携を深めることが必要かつ大切だとなんとなく思っている、では具体的にどうすればいいかと考えると…。学校や地域の会議に出向いた際、お話は伺っていたものの、勉強不足な私には、学校支援地域本部事業とは、そもそも何なのか？からのスタートでした。

発表事例の小学校では、地域支援事業本部発足から8年とのこと。発表者の方は、小学校の本部役員だったそうですが、どういきっかけで参加し、スーパーバイザーとしてどのような仕事をしているか等、学校と地域のパイプ役としてのやりがい、心遣い、アドバイスを教えてくださいました。

感じたことは、とにかく話をすることが大切ということです。依頼側の学校の意思、地域ボランティアさんとのマッチング、どのようなイベントにするか等、きめ細かに打ち合わせを重ねて、学校と地域、それぞれの目指すところを同じくすることで、子どもたちも楽しみながら参加できるイベントが完成します。これからの時代、このような地域との関わり方が不可欠となってくるといった研修会でした。

PTA会長 高松 博子